

□ 複合施設の設置及び運営に関する懇談会  
第1回 児童育成施設分科会 議事録要旨

日 時	平成 21 年 11 月 12 日 (木) 19:00～20:30
場 所	荒川区役所 4 階 庁議室
出席者	〔委 員〕 小林敦子副分科会長、 志村博司委員、竹内捷美委員、吉田詠子委員、斉藤邦子委員、 上田寛子委員、高田忠則委員、仲村 威委員、北川嘉昭委員、 高梨博和委員  〔オブザーバー参加〕 濱嶋計画課長、小泉児童青少年課長、鈴木指導室長  〔事務局〕 飯田特命担当課長、中野企画係長、谷井企画係主査

- 1 分科会長、副分科会長の選任
- 2 〔事務局説明〕 分科会の進め方、区の現状、区の児童育成施策推進状況、区内の施設の状況、  
周辺施設の状況、プロジェクトチームにおける検討内容
- 3 〔意見交換〕
  - ・汐入小の資料室のように、まちの資料館的なものがあって、見て触れるようなものがあるといい。
  - ・今の子どもたちには実際に体験して見る必要がある。荒川区には伝統工芸もあるので、そういうものに触れることで、荒川らしさがわかる。
  - ・施設までのアクセスを考え、コミュニティバスさくらの路線変更も視野に入れてはどうか。
  - ・子育て中の母親たちが集える場がない。子どもをちょっと遊ばせながら親同士がゆっくり話せる場所があれば、部屋にこもってしまうこともないのではないか。
  - ・施設を長く使っていくには数年後のことも考えないといけない。
  - ・支えるボランティアを育成する必要がある。
  - ・集会室や会議室は、三施設で共有できる。
  - ・紙芝居、ぬりえ美術館なども荒川区の産物。手作りの伝承玩具などお金をかけなくてもできることはある。
  - ・区内には、ふれあい館やひろば館などもありいろいろな使い方をしている。ふれあい館で実施しているような事業は、物足りないのではないか。
  - ・荒川区にはふれあい館やひろば館をはじめ子育て交流サロン等、小規模な場は点在している。それらと新施設はどう関連していくのか。中心的な役割になるのか、また別の役割を担うのかということの整理が必要である。

- ・子育ての自主サークル等、PTA や町会等の既存組織に属していない人の意見なども聞いてみてはどうか。
- ・どのようなソフトを入れるか、が問題。ボランティアやいろいろな機関の協力が必要。
- ・コンビニには中高生が集まっている。そういう子どもたちの居場所についても考えるべきである。
- ・たとえば、器用な子どもがいてもっと何かをやりたいのであれば、荒川にはマイスターがいるので教えてもらう。新施設がその拠点になるように、広く利用できるようにしてもらえたらと思う。
- ・子どもの興味、好奇心が満足する体験をさせる。それが危険を伴う時もあるがやってみることが必要である。
- ・伝承玩具は次世代につないでいくものであり、子どもの時に得たものは大人になっても生きているもの。
- ・見守る人やアドバイスをする人がいることを含めた何か体験できる場があるといい。
- ・子ども家庭支援センターは多くの区民に利用され大変良い。センターと新施設は性格の違うものと思う。センターに来る子どもたちよりは、少し年齢が上の小中学生ぐらいが体験したり見て触って面白いという施設がよい。
- ・展示は1回見ればそれでいいかもしれない。見て触って楽しめるものや小中学生の科学実験の機会があってもいい。
- ・包丁がにぎれずはさみで食材を切る人もいるので、食育の体験も必要。ガラス張りの外から見えるキッチンでやるのがいい。自分もやってみようかと喚起を促すことにもなる。
- ・中学生くらいになると自分の将来を考える生徒も多いので、職業体験やプロフェッショナルと話す機会があるとよい。
- ・中高校生が幼児に会ったとき、どんな子でも子どもになって素直な時間が持てる。こうしたことも反映できる場が欲しい。
- ・施設のスペースは限られている。図書館と文学館のスペースはある程度決まっているので、ここはそう大きくはとれない。交流サロンとか談話室、情報コーナー、相談室、託児スペース、研修室、会議室などは3つの施設で兼用できるところもある。
- ・ふれあい館やひろば館にも、創作室、木工室、図工室はある。
- ・指導員の人材育成や能力向上の面では、区の児童事業を中心にリードする施設が欲しい。
- ・科学実験は学校の理科室でもできるが授業では限界がある。もっと勉強したい子どもたちの要望に応えられるところがあったらいいのではないか。
- ・指導者を育成することは大事。ここで学んだ人がまたさらに教える、あるいは子どもが大きくなって教える、さらにはボランティアで教えにくるといふところまで考え方を広げれば非常に良い。

- ・荒川図書館近くにあるプラネタリウムもなくなるわけだが、なくなるものをどうするのかという議論も必要。
- ・中高生のボランティアのようなものがあるといい。
- ・持続可能なものとするしくみをどうするか。地域ぐるみで何かやっていけるようなしくみができるといい。
- ・荒川らしさ、荒川ならではの何かを加えるべきである。
- ・科学系の展示や実験等はコストがかかる。特にプラネタリウムはあまりにも高い。実験等も危険を伴うのでリスク管理が必要となる。科学系を入れるには工夫がいる。施設がちょっと狭いのも気になる。
- ・荒川らしさ、という点では、伝承玩具や伝統工芸をいかせるのではないかな。
- ・吉村昭記念館のコンセプトとあまり離れても、という点が気になる。
- ・荒木田ふれあい館では多目的ホールで中高校生がダンスをしたり、音楽室の利用者もバンドや楽器演奏など年齢層は様々のようなようである。場所があれば結構若い人たちもグループで使うようだ。

#### 4 [事務局説明] 今後の分科会について

- 12月 4日（金） 第2回分科会 午後7時から 庁議室
- 12月 24日（木） 第3回分科会 （終日視察）